

舞踏家大野慶人の現在を語る 最も重要な映像と言葉をここに集結した。

舞踏は明確な始まりを持っている。1959年土方巽の「禁色」である。大野慶人は共演者だった。舞踏に不滅の金字塔がある。1977年大野一雄の「ラ・アルヘンチーナ頌」だ。大野慶人は制作者だった。これは偶然のつながりではない。しかしその故に、私たちはこれまで大野慶人の舞踏を遠くに見がちだった。ダンスが立ち現れるには時間がかかる。大野慶人の踊りは、ようやく私たちの眼前に初々しく、赤裸な姿を現しつつある。舞踏の起点と頂点と、そして転換点に今彼は立つ。

収録映像 (英語字幕付き)

伝説的前衛映画「へそと原爆」(監督・脚本:細江英公/14分)
土方巽が1985年大野慶人のために振付けた「死海」より(24分)
Antony & the Johnsons との歴史的共演(2010/17分)
「花と鳥」初演(大野一雄フェスティバル2013/12分)
「睡蓮」より(シンガポール 2011/7分)
「ウサギのダンス」(ミュンヘン 2014/6分)
「禁色」(1959)の体験を語るインタビュー(16分)

新書見出し (日英完全対訳)

25…「舞踏」というものがあつたわけじゃない。
26…当時はみんな「モダンダンス、モダンダンス」って言った。
28…自分の中にある優しさ、あるいは繊細さ。
30…2歳のとき、勝浦の庭に立っているのを覚えている。
39…命をかけてやってることですから、
42…「禁色」の話が出たのは「老人と海」が終わってから。
71…僕は、人生そのものがそうだったけど、考えたらいつもフレームですよ。
72…大野一雄が、急に、舞台上で転んだりして、ああ、少しおかしいと思ったら、目が見えなかった。
81…大野一雄が死んで、自分の中で大きな変化があった。
84…土方さんの他のお弟子さんから知ったことですが、彼らは動きで振付けられてる。
88…津波が来て、何もなくなってしまったときに、
90…舞踏は、一生を貫くものだ。
92…魂、命ということを大切にする。

大野慶人 Dance Film DVD + 新書

「花と鳥 舞踏という生き方」特製美箱入り

本編85分/特典映像14分/新書112ページ 本体価格 5,000円+税

発行: 有限会社かんだ(140-0004 品川区南品川5-11-19)

大野一雄舞踏研究所公式サイトからご購入下さい。

お電話、FAXでも受け付けています。

<http://www.kazuooohnodancestudio.com>

電話/FAX 03-3450-6507 Email info@canta.co.jp



Yoshito Ohno Dance Film on DVD
大野慶人ダンスフィルム DVD

Flowerbird 花と鳥

Butoh: A Way of Life
舞踏という生き方

大野慶人の映像と言葉から
舞踏 Butoh の現在を透視する

大野慶人

Yoshito Ohno

DANCE Videology

「へそと原爆」、Antonyとの共演等歴史的記録の他、土方巽の振付の言葉を語りながら踊る実験的映像を特別収録。舞踏の本質に迫ります。



「へそと原爆」(1960)



Antony and the Ohnos (2010)



そして世界は変わった
粉のライオン



「大野慶人ヴォイスオーバー」

大野慶人 おおのよしと

1938年東京に生まれる。1959年土方巽の「禁色」で少年役を演ずる。60年代の暗黒舞踏派公演に参画。69年初リサイタル後に舞台活動を中断、85年「死海」で大野一雄と共演、カムバックした。86年以降大野一雄の全作品を演出。近作にヴァパター舞踊団ダンサーとの共演「たしかな朝」(2010)、音楽家アントニーとの「Antony & the Ohnos」(2010)。ソロ作品「花と鳥」(2013)はヨーロッパ(2014)、ブラジル(2015)を巡演。著書に『大野一雄 魂の糧』(フィルムアート社)、『舞踏という生き方』(かんた)。

Butoh : A Way of Life

舞踏という生き方

Yoshito Ohno

大野慶人

Even before the early 60s "Butoh"³² as such was unknown. Before its inception there was the whole modern dance³³ movement. Kazuo Ohno³⁴ had studied it and was to develop it in his own particular manner— as did Tatsumi Hijikata³⁵ and I for that matter. Our roots were similar, namely, modern dance. The unique genius of Hijikata was that he crystallised all he had learnt and attempted thereby to forge a different meaning for the body by reducing it to its essential components. Hijikata's radical changes not only fostered an other approach to the body itself, but also to the implications of the creative act and performance. These changes became the kindling point for a radical shake-up of the status quo. I, too, was involved in this sea change within the dance world.

「舞踏」³²というものがあつたわけじゃない。その前にモダンダンス³³があつた。大野一雄³⁴も習って、自分なりに発展させてやってた。土方巽³⁵も。僕も。根っこは同じ、モダンダンスだった。それを、ひとりの、土方巽という天才が、それをひくくめて、もっと元に戻った形で、違った意味の肉体をつくりあげようとした。肉体に対する考え方、それから創造する、つくるといふことの意味あいが変わった。革命の発火点になった。自分はそういう革命の場に立ち会えた。

詳細な註を巻末に付記。

32. 舞踏

土方巽が創始した「暗黒舞踏」をその基盤として、土方に師事、私淑した者を中心に、主に1970年代半ば以後日本で広く展開した身体表現の総称。1980年大野一雄のナンシー演劇祭(フランス)参加以後、戦後日本を象徴する現代舞踊として世界的に注目を集めた。既存の舞踊技法を否定した独自の身体観は舞踊界のみならず広く国内外の芸術、思想界に影響を与えた。主な舞踏家に笠井叡、鷹赤児、石井満隆、中嶋夏、小林嵯峨、天児牛大、室伏鴻ら。2007年まで舞台出演を続けた。

33. モダンダンス

広義には、20世紀初頭イサドラ・ダンカンによって始められた近代主義舞踊を意味し、従来の古典バレエの技法を踏襲しない新しいダンスのこと。日本では大正期石井漢、高田雅夫・せい子らによって欧米の新舞踊を取り入れ基盤が築かれ、戦後は現代舞踊とも称した。大野一雄、土方巽はその活動初期に、高田系の江口隆哉・宮操子に師事したことがあったが、いずれも1959年を機に現代舞踊界から離れ、独自の活動を開始している。

12時間に及ぶインタビューから、個人史、舞踏観、土方巽と大野一雄との体験を語るテキストを写真70数点とともに編集。日英完全対訳。